

様式第7号（第11条関係）

里親支援強化プロジェクト事業実績報告書

令和4年3月31日

静岡市長 田辺 信宏様

所在地静岡市葵区堤町914-417

名称 特定非営利活動法人 静岡市里親家庭支援センター

報告者 代表者の氏名 理事長 眞子 義秋

電話番号 054-275-2252

令和3年4月1日付け03静市市第1464号により補助金の交付の決定を受けた事業が完了したので、静岡市里親支援強化プロジェクト補助金交付要綱第11条第の規定により、次のとおり関係書類を添えて報告します。

1 交付決定額 286,512円

2 事業完了年月日 令和4年3月31日

3 添付書類

(1) 事業実績書（様式第8号）

(2) 収支決算書（様式第9号）



様式第8号（第11条関係）

事業実績書

事業名称	静岡市里親支援強化プロジェクト
事業実施期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日
実施場所	静岡市児童相談所他
総事業費	309,131円
事業目的	<p>本来、子どもにとって家庭は、子どもの成長・発達にとって最も自然な環境であり、子どもが家庭において心身ともに養育されるよう保護者を支援することが重要であるが家庭で適切な養育を受けられない場合には家庭に近い環境での養育を推進することが重要である。しかしながら、まだまだ里親制度については、世間一般に受け入れられるような状況ではないことが課題と考えます。</p> <p>そのためには、専門的及び先進的な見地から里親家庭のより良い環境の整備を促進し、社会的に受け入れる協力体制づくりを構築すべきと考え事業を実施しました。</p>
事業内容	<p>全8回にわたり、専門家（大学准教授）を講師として招き、里親さんがもつ悩みや不安の解消を目指すとともに、将来の里子さんの自立を支援します。</p> <p>今回の特色は、里親さんの相談ではなく専門的な見地により、現在多くの里親さんも悩んでいるスマホ等のゲーム障害や発達障害、養子縁組などについて正しい知識を習得するとともに里親里子が向き合っていけるようサポートするものです。</p> <p>将来里子さんが自立していくためにも必要不可欠な研修を厳選し、職員と共に学び研究しました。</p> <p>開催時期 令和3年8月～令和4年3月（全8回）          講師 上野 永子氏（静岡福祉大学准教授）          1 里子への心理教育「それってどんな気持ち・自分の感情を知る」</p>

	<p>内 容</p> <p>1 回目令和3年8月10日10時～11時30分 2回目令和3年8月10日14時～15時30分 「表情カード」を使用して、好きな気持ちや状況によって変化する気持ちについて意識をむけることができるようなやり取りを行う。 参加人数 里子 8人 ※アシスタント大学4年生が参加</p> <p>2 里父のための、家庭教育講座</p> <p>内容</p> <p>3回目令和3年11月7日10時～12時 参加者5名 「父になる」 よき父であるためには、よき夫であることが必要であることを知り、夫婦のコミュニケーションの重要性について学ぶ</p> <p>4回目令和3年12月5日10時～12時 参加者6名 「アタッチメント」 子供の心に寄り添う養育の在り方について、それぞれが考える機会となるように「安心感の輪」子育てプログラム「安心感の輪」に寄り添うことを実施</p> <p>5回目令和4年1月23日10時～12時 参加者10名 「真実告知とライフストーリーワーク」 血縁にない親子が、血縁関係によらない親子関係を築くことが重要であり、そのためにも真実告知やライフストーリーワークが必要であること、真実告知を経験した先輩里親の体験談を聞きながら知る。</p> <p>6回目令和4年2月6日10時～12時 参加者9名 「特別養子縁組」 特別養子縁組後の児童相談所や静岡市里親家庭</p>
--	---

支援センターとのかかわりと特別養子縁組里親子  
であっても、真実告知、ライフストーリーワークは  
必要であること、子供の記憶の発達や自己肯定感  
を育むことを意識した養育が必要であることを知  
る。また、特別養子縁組後も里親会といったコミュ  
ニティーに所属することの利益について知る。

7回目令和4年3月5日10時～12時 参加者9名

「里父サロン」

里親のコミュニティーづくりに向けた、親睦の  
場を提供する。

8回目令和4年3月18日9時～12時 参加者4名

「里子への心理教育」

里子は、ライフストーリーワークや自立といっ  
た里子固有の出来事に際し、情緒的に不安定に  
なる可能性が予想される。その際に、自分の感情  
に気づき、それについて適切に表出し、それを大  
事にされる体験を重ねることが、これらの困難  
を受け入れ、乗り越えることが必要である。

「里父の会」

普段の里親研修では、里母が出席することが多  
い。そのような中、里父母間で知識差や意識の温  
度差が生まれ、里母が困惑しているとの声が聞  
かれた。その声を受けて、多くの里母が研修会を  
通して学んだ内容を里父にも学ぶ機会を提供す  
ることにした。

<p>事業を実施したことによる効果や影響</p>	<p>「里子への心理教育」</p> <p>実施後の子供たちからのアンケートから、「面白かった」といった肯定的な評価を得た。一度きりの心理教育で、子供たちに大きな変化を見えることはないと思われるが、自分の気持ちに意識を向ける機会を持つことは、今後のライフストーリーワークに向けて必要である。</p> <p>「里父の会」</p> <p>初の継続的な里父の会の開催であったが参加者からはおおむね満足と評価されたといえる。アンケートには、今後も同様の研修会開催を希望する声や、里父子の会開催を望む声が聞かれた。</p> <p>「まとめ」</p> <p>里親さんに対して専門的見地からわかりやすく現在の子どもが抱えている問題や発達障害の子への正しい知識、家庭の再統合、真実告知、など将来起こりうる様々の状況をグループ討議や研修会、などを通して少しでも不安の解消ができたと思います。</p> <p>里親さんが正しい知識、技術を得ることにより里子さんの健全育成に寄与できたと考えます。</p>
--------------------------	---

様式第9号 (第11条関係)

収支決算書

収入		支出	
里親支援強化プロジェクト補助金	286,512 円	報償費	講師謝金 35,000×8回 =280,000 円
自己資金	22,619 円	消耗品費	教材費等一式 23,941 円
		使用料及び賃借料	会場借上費 5,190 円
計	309,131 円	計	309,131 円